

平成30年12月20日(木)

顔が怖い

福島市の県立医大内の銀行に勤めている母の友人が、母を訪ねて来た時に、医大の関係者に阿部さんをご存知ですかと聞いたところ、「ああ、あの怖い顔の人ね。」といわれたことを母に話しているのを隣で聞いていた。

私の顔は怖いのだということをうすうすは知っていたが、こんなにあからさまに言われてみると、怒るよりむしろ、納得している自分がいた。

昔、田村高校の野球部の監督を8年間務めていたが、どの選手も私の顔を見ると相当怖いと思っている節が随所に見られた。その怖さで、野球部もなんとかほかの学校に対して戦えるようになったのか。

最初は出ると負けの弱小軍団だったが、県大会で準優勝し、東北大会に2度出ることにもできた。そのころ、教員として初めて担任を持ち、卒業生を出すこともした。クラスの子たちも顔が怖いと思っていたのだろうか。

若い時ならいざ知らず、今頃そんなことを言われても、時には優しい顔もしているはずだと思いながら、でも、やっぱり、顔が怖いで皆が納得するのなら、しょうがないことであろう。

男は40までに自分の顔を作り、その顔に責任を持たなければならないという話を聞いた。とすると、私は、この怖い顔が自分として責任を取らねばならぬ顔となる。

時にはにこっとしながら毎日を送るようにしたい。

結論 やはり顔はにこやかにしよう。

